

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第6期相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1）		
事務局 (担当課)	中央区役所区政策課 電話042-769-9802（直通）		
開催日時	令和3年7月15日（木） 14時00分～15時25分		
開催場所	市民会館4階 第3中会議室		
出席者	委員	6人（別紙のとおり）	
	その他	0人	
	事務局	5人（上溝まちづくりセンター所長、他4人）	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p style="text-align: center;">1 議題</p> <p style="text-align: center;">第6期中央区区民会議重点行動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討取組①「子育て支援」 ・検討取組②「子どもの健全な育成環境の充実」 <p style="text-align: center;">2 その他</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>		

主な内容は次のとおり。

開 会

事務局から、運営に係る事務説明を行った。

―傍聴希望者 なし―

1 議題

前回のグループワークで各委員から提出された具体的な取組の順位付けと取組主体を順番に発表してもらった。

1－①「子育て支援」

(加賀谷委員)

【順位】

1位 ④子育てに優しい社会にする（授乳室を充実させるなど）

取組主体：自治会、公民館、民生委員児童委員、児童館等

2位 ⑥子育て世代の相談窓口の設置する

取組主体：児童館、社会福祉協議会

3位 ⑤地域の児童館などを利用した子育てに関する相談窓口を設置する

取組主体：児童館、社会福祉協議会、民生委員児童委員

4位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する

取組主体：自治会、公民館、地域ボランティア

5位 ②母親でいろいろな資格を取得している人への支援を行う

取組主体：地域の人材バンク、各公民館に登録

【意見等】

既存施設の統廃合が行財政構造改革プランにあったが、既存の施設や人材を活用したほうがよいのではないかと思う。

子育てをしている若い世代から高齢者まで同時進行で成長していける環境を目指したほうがよいと思う。

人材を育てる仕組みを地域で作ったほうがよいと思う。

(大塚委員)

【順位】

1位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する

取組主体：各自治会、子ども会

2位 ②母親でいろいろな資格を取得している人への支援を行う

取組主体：各自治会、子ども会

3位 ③3世代で生活することによって核家族化を解消し、お金や時間に余裕ができるようにする（取組主体は思いつかない）

4位 ⑦大人と子どもと一緒に取組めるイベントを開催する

取組主体：公民館青少年部

5位 ⑧父親が家事や育児に参加する意識改革を行う

取組主体：市PTA連絡協議会

【意見等】

放課後教室をやっているところとやっていないところがあるので、すべての学校でやったほうがよいのではないかと思います。また、公民館等でも行い、拡大していったほうがよいと思う。

資格を持っているお母さんたちを活用できるのではないかと思います。

(竹田委員)

【順位】

1位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する

取組主体：区民

2位 ④子育てに優しい社会にする（授乳室を充実させるなど）

取組主体：区民

3位 ⑨お泊り会などの記憶に残る行事を開催する

取組主体：自治会、公民館

【意見等】

星が丘地区では大学生等が小学生の学習のお手伝いを行っているが、いろいろな場所で行ったほうがよいのではないかと思います。

子育てに優しい社会にするには区民の意識づけが必要だと思う。また、お泊り会などは記憶に残っているという声をよく聞く。

(池田委員)

【順位】

- 1位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する
取組主体：子ども食堂
- 2位 ⑧父親が家事や育児に参加する意識改革を行う
取組主体：自治会
- 3位 ⑦大人と子どもが一緒に取組めるイベントを開催する
取組主体：公民館、児童館
- 4位 ②母親でいろいろな資格を取得している人への支援を行う
取組主体：学習・相談ボランティア
- 5位 ④子育てに優しい社会にする（授乳室を充実させるなど）・⑤地域の児童館など
を利用した子育てに関する相談窓口を設置する
取組主体：公民館、児童館

【意見等】

働いている親は自治会や児童館などには行けないが、学校には行く機会が多いと思う。一人の子どもに対して複数の大人がついているほうが一人ひとりの負担が減ると思う。資格を有効活用したほうがよいのではないかと思う。

(小川委員)

【順位】

- 1位 ⑥育て世代の相談窓口の設置する
- 2位 ⑤地域の児童館などを利用した子育てに関する相談窓口を設置する
- 3位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する
- 4位 ⑦大人と子どもが一緒に取組めるイベントを開催する
- 5位 ④子育てに優しい社会にする（授乳室を充実させるなど）

【意見等】

取組主体は、地域で横断的に行ったほうがよいという考えで具体的なものは出なかった。

悩んでいる方の相談を受けて、適切な支援ができるかが大事だと思う。相談というよりは同じような悩みを持って人と情報交換できる場があるとよいのではないかと思う。

子どもが一人で勉強することは難しいと思うので、一緒に学ぶ場を提供できたほうがよ

いのではないかと思う。

(牛尾委員)

【順位】

1位 ①塾に通えない子どもに学習の場を提供する

取組主体：学校、シルバー人材センター

2位 ②母親でいろいろな資格を取得している人への支援を行う

取組主体：シルバー人材センター、PTA

3位 ⑤地域の児童館などを利用した子育てに関する相談窓口を設置する

取組主体：公民館

4位 ⑥子育て世代の相談窓口の設置する

取組主体：公民館

5位 ⑦大人と子どもと一緒に取組めるイベントを開催する

取組主体：地域

【意見等】

塾に通えない子の支援も必要だが、学校の勉強についていけない子や学校に通えない子がいることを聞いたので、そういう子の支援が必要ではないか。また、学校の中で悩みを聞く制度が他市であるので取り入れたらよいのではないかと思う。

PTAを通じて資格を持っている方などに声を掛けられるのではないかと思う。

公的な相談窓口には行きづらいため、サロンなどで気軽に相談や情報交換する場が提供できないかと思う。

1-②「子どもの健全な育成環境の充実」

(小川委員)

【順位】

1位 ①不登校児童の相談窓口設置や通学等の相談窓口を周知する

2位 ②子育て世代の居場所づくりや大人と子どもがふれあえる場を提供する

3位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う

4位 ⑤発達障害の子どもへの理解を深める説明会などを開催する

【意見等】

不登校児童が増えているということは相談窓口が十分に機能を果たしていないと思う。相談窓口が知られていない、相談に行きづらいということがあがると思うので、行政だけで

なく気軽に相談できる場などを作ったほうがよいのではないかと思います。

人材を育成・確保するうえでは仕組みづくりは必要ではないかと思います。

発達障害に関しては知識がないと対応が難しいと感じてしまうため、理解を深めることは重要ではないかと思います。

(池田委員)

【順位】

1位 ⑦子ども食堂を利用としている家庭や本当に必要としている家庭の調査をする

取組主体：子ども食堂

2位 ①不登校児童の相談窓口設置や通学等の相談窓口を周知する

取組主体：自治会

3位 ②子育て世代の居場所づくりや大人と子どもがふれあえる場を提供する

取組主体：公民館、児童館

4位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う

取組主体：学習・相談ボランティア

【意見等】

相模原市には子ども食堂はたくさんあるが、子ども食堂がなくなるのが理想で、貧困等とは関係なく、相談する場や子どもが集まる場があるとよいのではないかと思います。

不登校は8050問題にもつながっていると思うので、学校だけではなく自治会や地域で取組んでいくことではないか。

2020年出生率84万人、2020年成人式124万人、20年の間に子どもの数が3分の2になっている。出生率を上げることを考えていかなければならないと感じた。

(竹田委員)

【順位】

1位 ⑤発達障害の子どもへの理解を深める説明会などを開催する

取組主体：地域

2位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う

取組主体：人材バンク

3位 ①不登校児童の相談窓口設置や通学等の相談窓口を周知する

取組主体：自治会、地域

【意見等】

発達障害は知識がないと対応が難しいと思うが、理解を深めれば何かできることがあるのではないかと思う。

学校だけではなく地域でも不登校について考えていく必要があるのではないかと思う。

(大塚委員)

【順位】

1位 ⑥公園等で禁止されている遊び方を解消して自由な遊びができるようにする

取組主体：行政

2位 ①不登校児童の相談窓口設置や通学等の相談窓口を周知する

取組主体：行政

3位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う・⑤発達障害の子どもへの理解を深める説明会などを開催する

取組主体：PTA

【意見等】

見守る必要はないので小学校の校庭を遊び場と開放できないのか。

相談窓口や不登校解消に対する支援等の情報が不足しているため、情報提供や周知をしてほしい。

(牛尾委員)

【順位】

1位 ①不登校児童の相談窓口設置や通学等の相談窓口を周知する

取組主体：民生委員、地域

2位 ②子育て世代の居場所づくりや大人と子どもがふれあえる場を提供する

3位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う

4位 ⑥公園等で禁止されている遊び方を解消して自由な遊びができるようにする

取組主体：地域のボランティア

【意見等】

不登校の問題にははじめもあるが、共働きも原因の一つにあると聞いたことがある。学校だけではなく地域でも支援が必要ではないかと思う。

学校を開放して子どもが遊べる場を提供したほうがよいのではないかと思う。

(加賀谷委員)

【順位】

1位 ②子育て世代の居場所づくりや大人と子どもがふれあえる場を提供する

取組主体：地域と自治体の支援

2位 ④学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う

取組主体：ボランティア団体

3位 ⑥公園等で禁止されている遊び方を解消して自由な遊びができるようにする

取組主体：行政、地域の理解

4位 ⑤発達障害の子どもへの理解を深める説明会などを開催する

取組主体：地域

5位 ⑦子ども食堂を利用としている家庭や本当に必要としている家庭の調査をする

取組主体：行政

【意見等】

既存の施設、空き家、学校の空き教室、自治会館などを居場所として提供できないか。
他市では、空き家を利用してカフェにするなどの事例がある。

地域で何かをやろうとしている団体や人はたくさんいると思う。

地域住民のための公園として維持していくための方法が考えていかなければならないと思う。

障害に対する研究は日々進んでいて、昔と今では知識や対応が変わるので、理解を深めることはとても重要なことだと思う。

(事務局)

時間の都合により、各委員の順位をもとに全体の順位付けを事務局で行い、会議録と一緒に通知することとした。

閉 会

次回は、8月6日（金）を予定していたが延期することとし、改めて通知で案内することとした。事務局あいさつの後、閉会。

第6期相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	池 田 眞 弓	公募委員		出席
2	牛 尾 良 一	中央地区まちづくり会議		出席
3	大 塚 悦 子	相模原市立小中学校P T A連絡協議会		出席
4	加 賀 谷 育 子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
5	神 田 隆 吾	公営社団法人相模原青年会議所		欠席
6	竹 田 幹 夫	星が丘地区まちづくり会議		出席
7	小 川 紳 夫	相模原市公民館連絡協議会		出席
8	割 柏 秀 規	光が丘地区まちづくり会議		欠席